

まつもと じゅん  
**松本純**

中区・磯子区・金沢区  
**まちかど  
政治版**



平成15年8月1日号  
発行 かながわ1区支部  
編集長 平木 茂

No. **4**

問合せ●横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585 ホームページ [www.jun.or.jp](http://www.jun.or.jp)

# 「電力危機」が叫ばれるこの夏 電気と生活を考え直すいい機会に!

私は絵や書が好きで、予定もなく通りかかったギャラリーに飛び込んで、ホッとしたひとときを過ごすことがよくあります。

先日、梅雨の合間の暑い日に横浜市民ギャラリーの書道展にブラッと入ってみました。いつもなら、館内に入れば汗がすうっとひいて快適な環境で作品を鑑賞できるのですが、この日の会場の暑いこと暑いこと。書道ファンの皆さんも、扇子をバタバタさせています。

受付の女性に「暑いですね」と声をかけたら、「申し訳ありません。省エネのために冷房を28度に設定しているそうでして……」という返事でした。

そういえば、県庁でも横浜市役所でも、知事、市長をはじめ男性職員は全員ノーネクタイで執務しています。



省エネは、この季節になると必ず言われることですが、今年は特別の事情で、首都圏では真夏のピーク時に電気が足りない「電力危機」に陥る恐れが指摘されているのです。

その特別な事情とは――。昨年8月、東京電力の原子力発電所の自主点検結果に虚偽の記載のあることが発覚しました。発電装置のひび割れなどのトラブルを隠していたというのです。この問題は東電トップの総退陣、原子力安全・保安院の立ち入り検査……と拡大し、17基ある東電の原発のほとんどが、点検のために運転を停止するという事態に発展しました。

現在、国内には14道県に53基の原発があります。2000年度の原発の発電能力は約4,500万キロワット。水力や火力などをあわせた総発電量の約34%にあたります。これはアメリカ、フランスに次ぐ発電量だそうです。

東電の場合、原発の発電量の占める割合は約40%とさらに高く、その原発のほとんどが止まってしまったのですから、冷房をフル回転にする電力のピーク時に、電力が足りなくなるというのも当然です。

東電では、運転を停止していた横須賀火力発電所などの運転再開や自家発電している企業から余剰電力を買うなどの対策で、危機を回避するのに必死です。国と原発をもつ県も、原発の運転再開に向けて動いており、「これで危機は当面回避できそうだ」という見方もあります。

東電のトラブル隠しの発覚以来、原発の危険性を指摘する声は大きくなっています。原発をもつ自治体の東電や国に対する不信感も強まっています。その一方で、私たちの快適な生活が原子力発電に大きく依存しているという現実。この夏は、私たちにとって、冷房を抑えて省エネに協力しながら、その暑い暮らしの中で、「電気と生活」を考え直すいい機会になるのではないのでしょうか。





## ポスターに込めた「松本純6つの顔」②

このポスターには、私の顔(デカイ顔ですいません)のほかに6枚の写真が印刷されています。実はそのひとつひとつに、私の思いを込めました。第2回は、左側の一番下、河野太郎代議士(神奈川15区選出)との2ショットです。太郎さんとはともに「日本を変える」「自民党も変わる」を目指して活動する同志です。

太郎さんから、こんなメールをいただきましたので、紹介します。

## 松本純を国政に！ 河野太郎

松本純さんの魅力は、なんと言っても自民党らしくないところ です。以前、総選挙で誰を推すかという議論をしている中で、派閥の意向はこうだと言った先輩を睨みつけ、先頭に立って反旗を翻した松本純。遺伝子組み換え食品に関する新しい表示のルール作りをしていく中で、そういうルールは好ましくないという厚生省や農水省の幹部の声をあっさり無視して、消費者の選択に資する新たなルールを提案したいと党内の議論で言い切った松本純。

早くこの国を変えなければ間に合わない。当選回数なんかどうでもいい、大事なのは個人の能力。松本純さんと私の考え、主張はほぼ同じでした。古い体質の政治家、つまり上の意向に従っていけば悪いようにはならない、派閥の中で汗をかけばいつかポジションがもらえる、役所とツーカーな関係を作っておけばいろいろと便宜を図ってもらえるなどという奴とは手を切って、若手で早く旗を立てようというのが、当時、当選一回の我々の合い言葉でした。

松本純という政治家が2000年の選挙で国会に戻ってこなかったのは、我々にとって大きな痛手でした。

これからの大きな政治課題の一つが年金、医療、介護といった社会保障の改革です。衆議院の厚生労働委員会で、自民党の厚生労働部会で、政策通ぶりを発揮した松本純さんの能力を、今、我々若手政治家は必要としています。

ポスト小泉は、きっと亀井さんや古賀さんではなく、安倍、石原、塩崎といった松本純世代になるはず。その誰がリーダーになっても、社会保障問題を取りまとめる専門家として松本純の力を借りたいと思っています。そのためにも、松本純さんを国政にしっかりと送り返さなくてはなりません。

日本の将来のために、松本純が必要です。我々には松本純が必要です。そして、松本純はあなたのご支援を必要としています。日本の新しい時代を創るために、松本純をもう一度！ (太郎)

### 市民グループのご紹介

衆議院神奈川1区(中区・磯子区・金沢区)には、住みよい社会を目指して活動するさまざまな団体があります。今回は「金沢区で暮らす障害児者の将来を考える会」を紹介します。この会は、「すべての人が『その人らしく生きる』ことのできる地域社会の実現」を目指して、勉強会や講演会を開いています。会報は「曹稟(そうりん)」という大変難しい言葉ですが、「ありのまま声あげていく仲間」という意味だそうです。今後の予定は次の通り。

- 9月18日(木) 勉強会「障害者福祉(支援費制度)」 ●10月16日(木) 勉強会「ボランティア交流会」
  - 11月17日(木) 講演会「障害児者のための性教育」(講師・任海園子氏) ●12月11日(木) 勉強会「自閉症を知る」
- いずれも午前10時～正午。会場は「いきいきセンター金沢2階」。どなたでも参加できますので、ぜひご来場くださいとのこと。詳しくは、事務局 電話788-2839 中村さんまで。

### まつもと じゅん プロフィール



昭和25年4月11日、横浜市中区生まれ。本町小、聖光学院中・高、東京薬科大卒、薬剤師。製薬会社を経て、(有)松本薬局に入社。現在は代表取締役。本町小PTA会長、横浜JC専務理事、野毛大道芸実行委員長として、街づくりや地域活動に取り組む。平成2年、横浜市議中区補欠選で初当選、3期務める。平成8年、衆議院総選挙で神奈川1区当選。専門を生かして医療・福祉・介護・年金などに全力投球。平成12年の総選挙で次点落選。現在は自民党衆議院神奈川1区支部長として国政復帰奮闘中。